発行 ： 2007年12月

Global Mix

グローバルミックスの現況

特別勘定（変額保険用） 月次運用報告書（2007年11月）

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
2007年11月における特別勘定（変額保険用）の運用状況をご報告致します。
なお、毎月の運用状況は、弊社ホームページにおいてもご覧いただけます。

ホームページアドレス http://www.axa.co.jp/life/

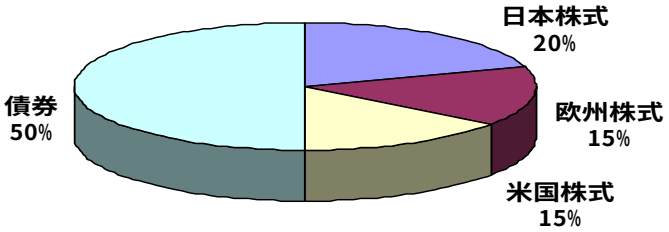
特別勘定の運用方針

- 日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長を目指します。為替リスクは、原則として、フルヘッジします。
- 基本的な資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。
- 特別勘定の運用は、各投資信託（ファンド）の買付けを含め、アクサ生命保険株式会社ファンド・マネジメント部が行います。
- 特別勘定の運用においては、アクサ・グループの運用会社（運用協力会社）の運用するファンドを買付けます。運用協力会社およびファンドは、今後予告なく変更される可能性があります。変更については、随時お知らせいたします。
- 各ファンドの資産配分比率は、金融情勢、経済動向などにより変更することがあります。

目次

特別勘定の運用方針	1
運用協力会社のご紹介	1
運用環境について	2
特別勘定の資産内容について	3
各ファンドについて	4-6
注意事項	6
契約月別の運用実績の例	7-9

（グローバルミックスの資産配分比率）



＊上記は設定当初の資産配分比率です。
＊資産配分比率は、将来的には変更されることがあります。

運用協力会社（ファンドの運用会社）のご紹介

■アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。
・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入等をしていますので、合計等と合致しないことがあります。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

運用環境について(2007年11月)

【日本株式市場】

■ 当月の日本株式市場は、日経平均が前月比▲6.31%で15,680.67となり、TOPIXが▲5.44%の1,531.88となりました。月初は、米大手金融機関への投資判断引き下げを機に米国における信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題への懸念が再燃、金融銘柄を中心に日本株式市場は大幅に下落しました。中旬にかけて、中国などが外貨準備をドル以外の通貨にも分散するとの期待を受け、円が買われました。9日にはサブプライム関連の損失による合併比率の見直しで、みずほ証券と新光証券が合併を延期する方向で調整しているとの報道を受けて、TOPIXは3ヶ月ぶりに1,500を割り込みました。後半にかけて、中国政府系ファンドが日本株に投資する見通しであることや、米連邦準備制度理事会(FRB)がさらなる利下げに踏み切る可能性があるとの憶測を呼び日本株式市場は急騰しました。

■ 東証33業種の月間上昇率上位業種は電気･ガス業(+4.60%)、医薬品(+0.18%)の2業種となり、一方、下位業種はゴム製品(▲17.72%)、海運業(▲15.83%)、非鉄金属(▲13.27%)、機械(▲13.01%)、不動産業(▲12.63%)となりました。電気･ガス業は国債利回りに対して配当利回りが高くなっていたことが好感されました。月後半は、アブダビ投資庁の米シティグループ出資の報道が伝わり、銀行業は急激に回復しました。この報道を受けて投資家心理に影響が出てきているものと考えられます。一方、円の上昇と米経済減速懸念からゴム製品に代表される輸出株は売られました。

【米国株式市場】

■ 当月の米国株式市場の主要株価指数の月間騰落率は、S&P500種株価指数は▲4.40%、ダウ平均株価は▲4.01%、ナスダック指数は▲6.93%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 9日には、11月のミシガン大学消費者信頼感指数が75.0と前月の予想以上に低下し2年ぶりの水準となり、エネルギー価格高や住宅価格の下落が消費者心理に影響を与えたものと見られ、主要株価指数は26日には月中安値を付けました。大手銀行の投資格付けが、評価損拡大を理由に引き下げられると、米国株式市場は金融銘柄を中心に下落し、その他自動車や小売など金融機関以外からも業績見通しの下方修正などが発表されたことから米国株式市場は下落しました。その後、米住宅金融大手による来年の住宅市場について続落予想を発表や連邦住宅抵当金庫(ファニーメイ)と連邦住宅貸付抵当公社(フレディマック)に召喚状が送付されたことなどを受けて、投資環境は更に悪化しました。

■ 月末にかけは、アブダビ投資庁の米シティグループ出資の報道があったことや、利下げ期待が高まり、サブプライム向け住宅モーゲージの救済計画が発表されたことなどが好感され、米国株式市場は反発して当月を終えました。

【欧州株式市場】

■ 当月の主要株価指数の騰落率は、MSCI欧州株価指数は▲3.97%、FT100指数は▲4.30%、仏CAC指数は▲3.03%、独DAX指数は▲1.85%となりました(いずれも現地通貨ベース)。

■ 当月は、月下旬にかけて米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題の影響により、米国大手銀行の評価損拡大のニュースが報道され、欧州でも金融不安が再燃し、主要銀行銘柄が株価を下げ、金融銘柄を中心に欧州株式市場は下落しました。その他原油価格が高値圏で推移していたことやユーロ高の進行で対ドルで史上最高値となったことに加え、米国から評価基準の厳密化に伴い金融機関の損失が一層拡大するとの報道に、欧州株式市場は一気に下落しました。

■ 欧州中央銀行(ECB)は、政策金利を据え置いたものの、総裁のインフレに対するタカ派的な発言が今後の利下げ期待を打ち消す結果となりました。

■ 月末にかけては、米国で利下げ期待が高まり、米国市場で問題となっている金融機関に対する大型出資や増資報道を受けて欧州株式市場は反発しました。

【国内債券市場】

■ 当月の国内債券市場は、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題に伴う世界的な信用収縮懸念を背景に、リスク回避的な動きである「質への逃避」が再び加速し、債券は堅調となりました。

■ 月初は、10月末の米連邦公開市場委員会(FOMC)での▲0.25%の追加的利下げが行われ、政策金利は4.5%となり、米景気悪化懸念が緩み米国債券を始め債券は軟調地合いで始まりました。しかしながら、欧米金融機関の決算発表等を受けて、「質への逃避」が再び活発化し、株安/債券高の動きが強まりました。為替市場のボラティリティが高まり、米ドル安の動きが強まったことも、この動きを下支えしました。

■ 月後半に入っても、この動きは継続し、日本株式市場の軟調な動きを受けて、10年国債利回りは、1.5%を割れ、1.4%台前半まで買い進まれる局面もありました。しかし、月末に向けては、中国の外貨準備の運用の一部で日本株への投資を行うとの報道や、米大手銀行の中東政府系投資会社による資本増強の報道を受けて、信用収縮後退との見方から株式市場が反発したことから、10年国債も月末に向けて1.5%前後まで売られる結果となりました。日銀は大方の予想通り、金利正常化の姿勢は維持するものの、足元の不確実性の高まりを懸念し、政策金利を据え置きました。

《参考指標》

		2007年10月末	2007年11月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1620.07 ポイント	1531.88 ポイント	-5.44%
	日経平均	16737.63 円	15680.67 円	-6.31%
	新発10年国債	1.600 %	1.460 %	0.140低下
米国	NYダウ	13930.01 ドル	13371.72 ドル	-4.01%
	S&P500	1549.38 ポイント	1481.14 ポイント	-4.40%
	NASDAQ	2859.12 ポイント	2660.96 ポイント	-6.93%
	10年国債	4.471 %	3.938 %	0.533低下
欧州	FT100	6721.60 ポイント	6432.50 ポイント	-4.30%
	CAC40	5847.95 ポイント	5670.57 ポイント	-3.03%
	DAX	8019.22 ポイント	7870.52 ポイント	-1.85%
	独10年国債	4.239 %	4.126 %	0.113低下
為替	米ドル/円レート	114.78 円	110.15 円	4.03円高
	ユーロ/円レート	165.68 円	162.71 円	1.79%円高

＊各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利（日本）、ジェネリック米国利回り10年（米国）、ドイツ国債10年の利回り（欧州）を表示しております。
＊為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

特別勘定の資産内容について（2007年11月）

【特別勘定のINDEXの推移】

「特別勘定のＩＮＤＥＸ」とは、弊社が変額保険「Ｇｌｏｂａｌ Ｍｉｘ」に係る資産の管理・運用を行っている特別勘定の資産運用状況を表す指数をいいます。この数値は毎日増減し、ご契約の積立金の金額もこれにともない増減いたします。

日付	INDEX
06/12/31	0.997
2007/1/31	1.007
2007/2/28	1.009
2007/3/31	1.009
07/04/30	1.017
07/05/31	1.027
07/06/30	1.025
07/07/31	1.007
07/08/31	0.993
07/09/30	1.007
07/10/31	1.009
07/11/30	0.982

【騰落率】

過去1ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	過去2年	過去3年	設定来
-2.68%	-4.35%	0.51%	3.58%	16.98%	-1.79%

注）設定日である２０００年８月１日を１．００としたパフォーマンスを示しています。
注）騰落率とは、一定期間における運用実績の変動率のことです。
注）上記の数値は過去の運用実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。
注）この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられるものを控除した部分の伸び率です。

【特別勘定資産の内訳】

項目	金額（千円）	構成比（%）
預貯金・コールローン	762,356	2.0
日本株式型投資信託①（アクサＲ）	3,567,695	9.5
日本株式型投資信託②（アクサＲ）	5,311,538	14.1
米国株式型投資信託（アクサＲ）	5,531,861	14.7
欧州株式型投資信託（アクサＲ）	3,602,432	9.6
日本債券型投資信託（アクサＲ）	18,384,975	48.8
その他	499,011	1.3
特別勘定合計	37,659,870	100.0

注）金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第2位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っておりません。

【保有契約高】

項目	件数（件）	金額（千円）
有期型	1,130	2,610,204
終身型	57,440	310,674,689
合計	58,570	313,284,893

注）金額の単位未満は切り捨てとしました。

【特別勘定の解説】

■ 当特別勘定は原則として、５０％を安全資産での運用にしております。
■ 積極的な運用を目指す株式部分は、当面日本株で全体の２５％、欧米株式で２５％の資産配分といたします。
■ リスク分散の観点から、少数銘柄に偏ることなく、資産種類および各資産ごとでの分散投資を心掛け、バランスのとれた運用を行います。

【今後の運用方針】

■ 特別勘定の運用資産における株式と債券の組入れ比率は現行水準を継続します。また、投資対象を幅広く分散することでより安定的な運用を行ってまいります。

（アクサ生命保険株式会社　ファンド・マネジメント部）

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター

日本株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資することで、安定的にベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： TOPIX

[運用状況]

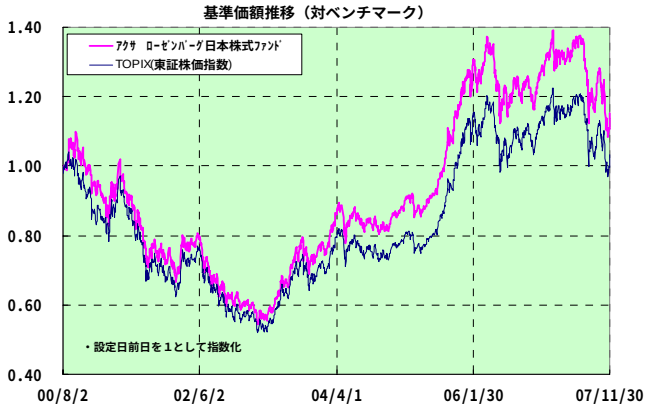
当月は、ベンチマークであるTOPIXが▲5.44%であったのに対し、当ファンドは、▲6.58%となり、▲1.14%のアンダーパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落率の低い銀行をベンチマーク比で少なめに保有していたことや、大きく下落した金属や化学を多めに保有していたことは、いずれもマイナスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落した本田技研工業(7267)、新日鉱ホールディングス(5016)や三井化学(4183)をベンチマーク比で多めに保有していたことはマイナスへの寄与となりました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム）

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.2%
2	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.9%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.4%
4	キヤノン	電気機器	2.2%
5	松下電器産業	電気機器	1.7%
6	任天堂	その他製品	1.7%
7	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.7%
8	日本電信電話	情報・通信業	1.7%
9	新日本製鐵	鉄鋼	1.6%
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.6%
合計			21.7%
組入銘柄数			370銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

日本バリュー株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： わが国の証券取引所上場株式および店頭登録銘柄に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用成果を目指します。「アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： TOPIX

[運用状況]

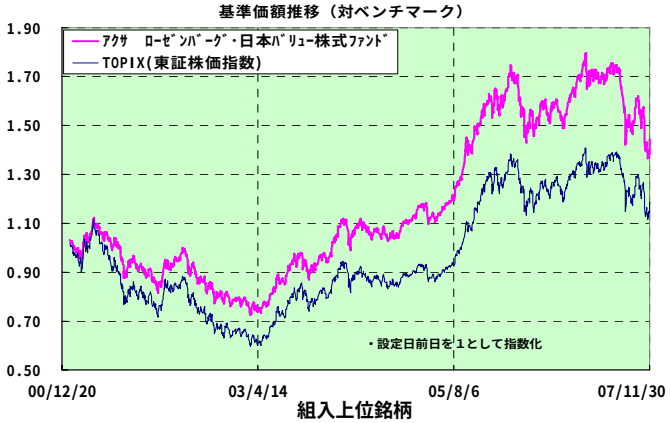
当月はベンチマークであるTOPIXが▲5.44%となったのに対し、当ファンドは▲7.27%となり、▲1.83%のアンダーパフォームとなりました。
当月の日本株式市場は、株価純資産利回りの高い銘柄が相対的に下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した総合商社、保険をベンチマーク比で多めに保有していたことがマイナスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落した三菱重工業(7011)や新日鉱ホールディングス(5016)をベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇したソニー(6758)を保有していなかったことはいずれもマイナスへの寄与となりました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本株式運用チーム）

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	松下電器産業	電気機器	5.4%
2	日本電信電話	情報・通信業	4.1%
3	三菱商事	卸売業	3.7%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	3.5%
5	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	3.3%
6	本田技研工業	輸送用機器	3.1%
7	三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	銀行業	2.7%
8	キヤノン	電気機器	2.5%
9	富士フイルムホールディングス	化学	2.3%
10	富士通	電気機器	2.2%
合計			32.8%
組入銘柄数			277銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価して います。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

欧州株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： 幅広い投資対象（欧州約3,500 社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： MSCI 欧州株式指数（為替ヘッジあり）

[運用状況]

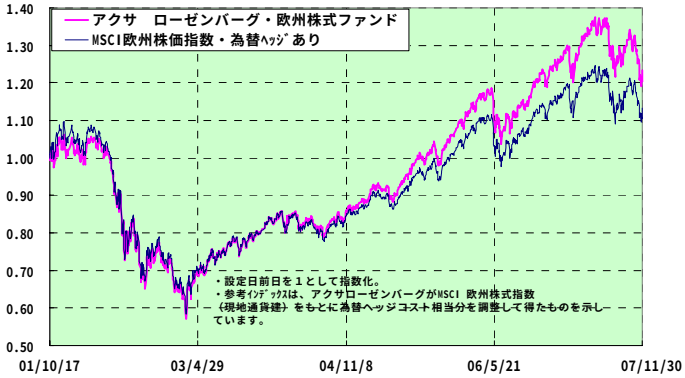
当月はベンチマークであるMSCI欧州株価指数が▲4.57%であったのに対し、当ファンドは▲5.62%となり、▲1.05%のアンダーパフォームとなりました。
当月の欧州株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が下落する傾向にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマークに比較して多めに保有していたことがマイナスに寄与しました。
業種別では、下落した自動車、保険などをベンチマーク比で多めに保有していたことや、上昇した食品を少なめに保有していたことはいずれもマイナスに寄与しました。
個別銘柄では、下落したエネルギーのNorsk Hydro ASA(ノルスク・ハイドロ、ノルウェー)、テクノロジー製品・機器のEricsson LM-B SHS(エリクソン、スウェーデン)や素材のBoliden(ボリデン、スウェーデン)などを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	ボーダフォン・グループ PLC	電気通信サービス	2.6%
2	BP PLC	エネルギー	1.9%
3	ロイヤル・ダッチ・シェル-PLC-A-SHS	エネルギー	1.9%
4	ネスレ	食品・飲料・タバコ	1.6%
5	HSBCホールディングス PLC	銀行	1.6%
6	サノフィ・アベンティス	医薬品・バイオテクノロジー	1.5%
7	トタル SA	エネルギー	1.4%
8	ダイムラー AG	自動車・自動車部品	1.4%
9	アリアンツ SE	保険	1.4%
10	ENI SPA	エネルギー	1.4%
合計			16.7%
組入銘柄数			323銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

米国株式ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

[運用方針]： 幅広い投資対象（米国約6,500 社が対象）を一貫した統計的手法で分析し、独自のクオンツモデルによる銘柄選択を行い且つ、リスクを限定しつつ安定的にベンチマークを上回ることを目標とします。
「アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）＜適格機関投資家私募＞」に投資します。

[ベンチマーク]： S＆P500（為替ヘッジあり）

[運用状況]

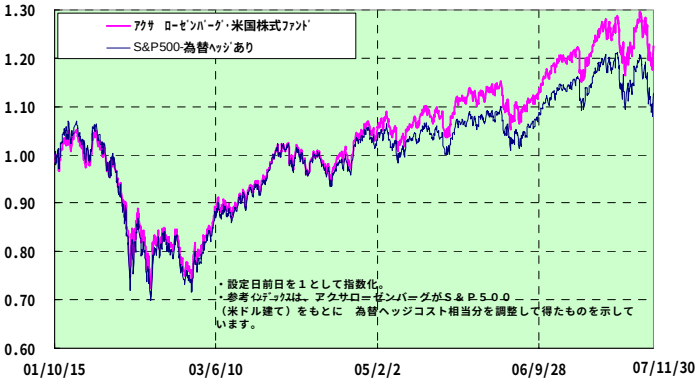
当月はベンチマークであるS&P500種株価指数が▲4.33%であったのに対し、当ファンドは▲3.43%となり+0.90%アウトパフォームとなりました。
当月の米国株式市場は、前月に引き続き金利の上昇懸念から、債務借入の大きい企業が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄ベンチマークに比べて少なめに保有していたことがプラスに寄与しました。
業種別では、上昇した保険をベンチマーク比で多めに保有していたことや、下落したソフトウェアや銀行を少なめに保有していたことはいずれもプラスへの寄与となりました。
個別銘柄では、下落したFannie Mae(ファニーメイ)を保有していなかったことや、上昇した資本財のDeere & Co(ディアー)、また素材のMonsanto Co(モンサント・カンパニー)をベンチマーク比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

[今後の運用方針]

当ファンドの運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。
割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行うことを基本とします。

（アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

基準価額推移（対ベンチマーク）



組入上位銘柄

	銘柄	業種	比率
1	エクソン・モービル	エネルギー	4.2%
2	ゼネラル・エレクトリック	資本財	2.6%
3	シェブロン	エネルギー	1.9%
4	ファイザー	医薬品・バイオテクノロジー	1.7%
5	マイクロソフト	ソフトウェア・サービス	1.7%
6	AIG	保険	1.6%
7	ヒューレット・パッカード	テクノロジー製品・機器	1.5%
8	ベライゾン・コミュニケーションズ	電気通信サービス	1.5%
9	コノコフィリップス	エネルギー	1.4%
10	AT&T	電気通信サービス	1.4%
合計			19.5%
組入銘柄数			295銘柄

＊上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

日本債券ファンド（運用会社：アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社）

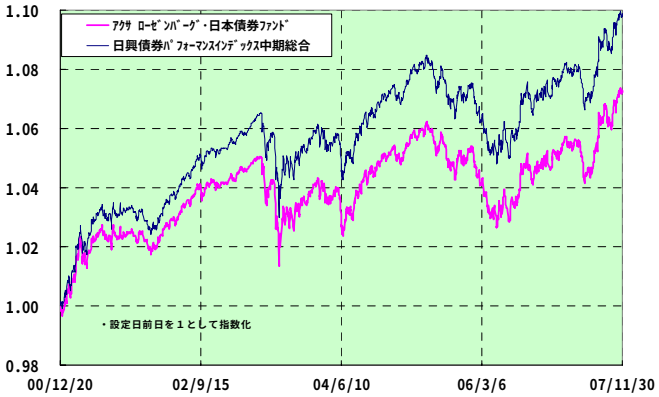
[運用方針]： 主としてわが国ならびに外国の公社債投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。「アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

[ベンチマーク]：日興債券ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ・ｲﾝﾃﾞｯｸｽ中期総合

[運用状況]

当月はベンチマークが+0.29%で、ファンドは+0.34%の上昇となりました。
景気、物価情勢は概ね日銀の展望に沿う形で推移してきているものの、消費関連指標に力強さは見られないことから、力強い経済成長を期待することは難しい環境です。世界経済の不確実性も依然とし払拭されず、足元では疑心暗鬼的に不確実性のリスクの高まりに市場は神経質になっています。従って、更なる金利低下余地は限定的であるものの、日銀による早急な金利正常化は、難しいとの判断を維持しました。前月から長期化していたデュレーションは、月後半、水準的に達成感があるものとの判断で、段階的に一部を中立に戻し、長期化幅を縮小しました。サムライ債の金融セクターが対国債で軟調であったこと等がマイナス要因となったものの、デュレーションの長期化がパフォーマンスに対してプラスに寄与し、全体では、対ベンチマークでプラスとなりました。

基準価額推移（対ベンチマーク）



[今後の運用方針]

足元の消費者物価指数はゼロ近傍となっているものの、景気、物価動向は概ね日銀の展望に沿った形で推移しており、日銀は、今後も金利の正常化を意識した金融政策を続けて行くものと思われます。しかし、外的要因としての米国における信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題の波及等依然として不確実要素が存在しており、日銀は再度、それらの点について詳細に点検を行う必要があると考えられます。11月も利上げを見送っており、米国が利下げを行うなど、依然として不確実性を強く意識しなければならない環境が継続していると言えます。当面は、米サブプライムローン問題の拡大や長期化、及び国内景気動向への影響を十分に意識しながらの舵取りとなるため、金利正常化を急ぐことは難しいと思われます。また、不確実性の高まりは金利の振れ幅拡大につながる可能性が高く、その点を注視して運用を行う必要があると思われます。当面は、国内要因のみならず外的要因の影響についても大いに注視をして行く方針です。

信託財産の構成

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
公社債	99.4%	4.41年
短期資産等*	0.6%	14.16年
合計	100.0%	4.47年

* 債券先物を含む

公社債の内訳

	組入比率	ﾃﾞｭﾚｰｼｮﾝ
国債	85.4%	4.67年
地方債	0.0%	0.00年
特殊・財投債	1.8%	3.51年
金融債	0.4%	2.53年
社債等	11.8%	2.78年
コールローンその他*	0.6%	14.16年
合計	100.0%	4.47年

* 債券先物を含む

格付別債券構成比率

格付区分 **	構成比率
AAA	1.8%
AA	91.8%
A	5.9%
BBB	0.5%
BB以下	0.0%
合計	100.0%

** S&P格付を優先

(アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社 日本債券運用チーム)

注）ここでは、特別勘定から買付けるファンドのパフォーマンスを評価しています。特別勘定自体のINDEXではないことにご注意ください。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合。但し、有期型の場合は、保険期間10年）

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年 8月 1日	1,000	-313	1,000	-277	-1.79	-0.25
平成12年 9月 1日	1,000	-322	1,000	-285	-3.24	-0.45
平成12年 10月 1日	1,000	-297	1,000	-261	-0.47	-0.07
平成12年 11月 1日	1,000	-276	1,000	-241	1.78	0.25
平成12年 12月 1日	1,000	-252	1,000	-218	4.38	0.61
平成13年 1月 1日	1,000	-231	1,000	-197	6.68	0.94
平成13年 2月 1日	1,000	-243	1,000	-210	4.73	0.68
平成13年 3月 1日	1,000	-204	1,000	-172	9.21	1.31
平成13年 4月 1日	1,000	-181	1,000	-149	11.66	1.67
平成13年 5月 1日	1,000	-206	1,000	-174	8.10	1.19
平成13年 6月 1日	1,000	-198	1,000	-166	8.77	1.30
平成13年 7月 1日	1,000	-182	1,000	-151	10.28	1.54
平成13年 8月 1日	1,000	-152	1,000	-122	13.52	2.02
平成13年 9月 1日	1,000	-109	1,000	-80	18.40	2.74
平成13年 10月 1日	1,000	-56	1,000	-28	24.46	3.61
平成13年 11月 1日	1,000	-73	1,000	-45	21.90	3.31
平成13年 12月 1日	1,000	-79	1,000	-50	20.77	3.20
平成14年 1月 1日	1,000	-78	1,000	-50	20.40	3.19
平成14年 2月 1日	1,000	-47	1,000	-20	23.69	3.71
平成14年 3月 1日	1,000	-55	1,000	-27	22.31	3.56
平成14年 4月 1日	1,000	-70	1,000	-42	20.08	3.28
平成14年 5月 1日	1,000	-62	1,000	-34	20.61	3.41
平成14年 6月 1日	1,000	-64	1,000	-36	19.92	3.36
平成14年 7月 1日	1,000	-22	1,000	5	24.56	4.14
平成14年 8月 1日	1,000	17	1,000	44	28.88	4.87
平成14年 9月 1日	1,000	20	1,000	48	28.88	4.95
平成14年 10月 1日	1,000	54	1,000	82	32.54	5.60
平成14年 11月 1日	1,000	58	1,000	85	32.52	5.70
平成14年 12月 1日	1,000	43	1,000	71	30.22	5.42
平成15年 1月 1日	1,000	74	1,000	103	33.64	6.08
平成15年 2月 1日	1,000	104	1,000	133	36.83	6.70
平成15年 3月 1日	1,000	113	1,000	142	37.37	6.91

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

発行 ： 2007年12月

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成15年 4月 1日	1,000	118	1,000	147	37.54	7.07
平成15年 5月 1日	1,000	101	1,000	130	34.73	6.72
平成15年 6月 1日	1,000	86	1,000	114	32.42	6.44
平成15年 7月 1日	1,000	67	1,000	95	29.63	6.05
平成15年 8月 1日	1,000	57	1,000	85	27.99	5.86
平成15年 9月 1日	1,000	49	1,000	77	26.57	5.70
平成15年 10月 1日	1,000	48	1,000	76	26.01	5.70
平成15年 11月 1日	1,000	38	1,000	65	24.28	5.47
平成15年 12月 1日	1,000	43	1,000	71	24.48	5.63
平成16年 1月 1日	1,000	33	1,000	60	22.80	5.38
平成16年 2月 1日	1,000	22	1,000	49	21.05	5.11
平成16年 3月 1日	1,000	11	1,000	38	19.34	4.83
平成16年 4月 1日	1,000	-1	1,000	25	17.43	4.48
平成16年 5月 1日	1,000	2	1,000	28	17.38	4.57
平成16年 6月 1日	1,000	14	1,000	41	18.40	4.94
平成16年 7月 1日	1,000	4	1,000	31	16.80	4.65
平成16年 8月 1日	1,000	25	1,000	51	18.70	5.28
平成16年 9月 1日	1,000	26	1,000	53	18.47	5.35
平成16年 10月 1日	1,000	28	1,000	55	18.28	5.44
平成16年 11月 1日	1,000	34	1,000	62	18.54	5.67
平成16年 12月 1日	1,000	25	1,000	51	16.98	5.37
平成17年 1月 1日	1,000	11	1,000	38	15.02	4.92
平成17年 2月 1日	1,000	14	1,000	40	14.91	5.03
平成17年 3月 1日	1,000	1	1,000	28	13.10	4.58
平成17年 4月 1日	1,000	3	1,000	30	12.89	4.65
平成17年 5月 1日	1,000	22	1,000	49	14.61	5.42
平成17年 6月 1日	1,000	14	1,000	40	13.22	5.09
平成17年 7月 1日	1,000	4	1,000	30	11.68	4.68
平成17年 8月 1日	1,000	-5	1,000	20	10.21	4.25
平成17年 9月 1日	1,000	-9	1,000	16	9.39	4.07
平成17年 10月 1日	1,000	-38	1,000	-13	5.74	2.61
平成17年 11月 1日	1,000	-29	1,000	-4	6.33	2.99
平成17年 12月 1日	1,000	-51	1,000	-51	3.58	1.77
平成18年 1月 1日	1,000	-65	1,000	-65	1.71	0.89
平成18年 2月 1日	1,000	-75	1,000	-74	0.30	0.16

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1－17－3 TEL 03-6737-7777（大代表）
編集・発行 アクサ生命保険株式会社 契約管理センター

契約日	終身型		有期型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成18年　3月　1日	1,000	-66	1,000	-66	0.82	0.47
平成18年　4月　1日	1,000	-72	1,000	-71	-0.08	-0.05
平成18年　5月　1日	1,000	-66	1,000	-66	0.13	0.08
平成18年　6月　1日	1,000	-30	1,000	-30	3.55	2.36
平成18年　7月　1日	1,000	-30	1,000	-30	3.21	2.25
平成18年　8月　1日	1,000	-26	1,000	-26	3.19	2.38
平成18年　9月　1日	1,000	-42	1,000	-66	1.20	0.96
平成18年　10月　1日	1,000	-39	1,000	-61	1.13	0.97
平成18年　11月　1日	1,000	-40	1,000	-59	0.65	0.60
平成18年　12月　1日	1,000	-38	1,000	-54	0.51	0.51

注（1）保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

（2）契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成19年11月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

（3）年複利は、契約月別運用実績を年複利換算したものです。

アクサ生命保険株式会社
〒108-8020　東京都港区白金1－17－3　TEL　03-6737-7777（大代表）
編集・発行　アクサ生命保険株式会社　契約管理センター